

令和8年第2回（6月）瀬戸内市議会定例会

行政報告

本日は、令和8年第2回（6月）瀬戸内市議会定例会を招集しましたところ、ご多用の中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

さて、令和8年度に入り第一四半期が始まっています。まちのいくつかの場面において、少しずつ活気が生まれていることを、皆さまも感じいただけているのではないのでしょうか。

4月の市営バスの乗降客数は、増便や路線の延伸、お試し無料乗車券の配布等を通じて、前年同月比で123%となりました。3月14日から増便いただいたJR赤穂線については、先日、私が増便した便に乗ってみると、席は満席となっており、立ったまま乗車するほどの盛況ぶりでした。

備前長船刀剣博物館では、国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」を3月20日から3月29日まで及び4月25日から5月6日まで、の計20日間にわたり公開しました。

今回の公開では、初めて「観覧予約を不要」としたところ、春休みやゴールデンウィーク期間中であったこともあり、20日間で、1万5,669人、1日平均約783人もの方々にご来館いただきました。これは、過去の同時期の来館客数と比較して3倍以上の大変な賑わいとなっています。

また、JR赤穂線の利用促進も目的とし、山鳥毛の展示期間に合わせて運行した、「長船駅からの無料シャトルバス」については、多くの利用希望があり、定員を上回る状況となりました。周辺の飲食店等においても、混雑や商品の完

売が相次いだと伺っており、来訪者の皆さまの周遊により、長船地域の新たな魅力を知っていただく機会になるとともに、地域消費の向上にもつながったものと考えています。

一方で、想定以上の混雑により、ご不便をおかけした点もあり、今後はさらに良い運営へとつなげていきます。

改めて、一連の取組にご尽力頂いている事業者の皆さま、関係者の皆さまに感謝申し上げたいと思います。

さて、こうした兆しを踏まえ、これからの瀬戸内市においては、「人が集い、手取りが増えるまちづくり」に向けて、さらに市政推進をスピードアップしていきたいと考えています。

現在の瀬戸内市人口ビジョンによると2045年には、人口が3万人を切り、高齢化率が42%を迎える見込みとなっています。この、「人口が2割減り、約2人に1人が高齢者となる見込み」が、仮に現実化した場合、地域の担い手がいなくなり、地域消費も大きく減退するため、多くの商業施設の撤退すら予見されます。残りたった19年後の見込みを、見込み通りにしないためには、さらなるスピード感を持った施策の実施、検証の推進が必須です。

そこで、新規施策のアイデアを市役所内や市内だけでなく、全国から広く募り、また施策の実施主体としても、市役所だけで全てを担うのではなく、官民連携をさらに推進することで、瀬戸内市の抱えるさまざまな課題をスピード感を持って解決していきたいと考えています。

このたび、6月1日に「瀬戸内市 オープンクリエイション 官民共創宣言」を行い、市内外を問わず、全国の企業・個人の皆さまが市長へ直接提案できる取組をスタートしました。A4用紙一枚の書類提出を通じて、誰もが市長へ提

案でき、興味がある提案については、市長に直接プレゼンテーションができる機会を作ります。そこで得られた素晴らしいアイデアは、庁内で検討した上で、予算化が必要な取組については、議会の皆さまとも議論を深めて、迅速に進めていきたいと考えています。

今年に入ってから、イズミ（ゆめタウン）様との包括連携協定の締結をはじめ、空き家再生に向けたカチタス様との連携や、地域活性化に向けたUber様との連携、市役所のAI推進に向けた株式会社ジーニー様との連携を予定しています。

また、市が所有する土地の民間活用をさらに進めるため、プロポーザルを実施し、駅前でのカーシェアリング導入の検証もスタートする予定です。

いずれも民間事業者様からの提案で検討が始まった取組ですが、今回の「オープンクリエイション 官民共創」を進めることで、さらに取組の幅を広げ、課題解決の迅速化を実現したいと考えています。

それでは、主な取組について、ご報告させていただきます。

○ 官民連携による災害対応力の強化について

本市では、海難事故や前島をはじめとする島しょ部における火災・救助・救急活動への即時対応を実現するため、市内に船舶を保有する民間5団体と、また、災害時におけるヘリポートの離発着場を増やすため、市内の民間3事業所と協定を締結しました。

これらの協定により、救命率の向上や災害発生後の早期の被災者支援を図りたいと考えています。

○ 定期預金の運用金融機関対象拡大について

従来、定期的に指定金融機関、収納代理金融機関を対象に行っていた定期預金への預け入れを、昨今の金利上昇を踏まえ、支払資金に余裕がある場合には、より高い運用収益を目指し広く全国から公募により利率の見積合わせを行うこととしました。

余裕資金を有効に活用し、少しでも利率の高い金融機関に預け入れることにより運用益の増加を図りたいと考えています。

○ 「こどもひろば」の常設化に向けた取組の開始について

「こどもひろば推進事業」は、これまで移動遊び場「プレーカー」を運行し、市内を巡回しながら、外遊びの場を提供してきました。

これまでの「こどもひろば」は、天候に左右され、日数が限られるイベント型で開催されていましたが、今後は、外遊びの場の提供に加え、天候に左右されず、また、いつでも常設型で遊ぶことができる「こどもひろば」を作り上げていくべく、市内に遊休地や空き店舗を所有する法人や団体に補助率1/2、上限1,000万円の補助金を交付する制度を創設しました。

この補助金は、5月15日から募集を開始しており、こうした取組により、「こどもひろば推進事業」を発展させ、子どもたちがいつでも遊べる場づくりを広げていきたいと考えています。

○ 自然共生サイトの認定について

生物多様性の保全に取り組んでいる地域として環境省・農林水産省・国土交通省が認定する「自然共生サイト」に、邑久町漁業協同組合の取組が日本最大

級の海エリアとして3月17日に認定されました。

これは、昨年度、市内第1号として同サイトに認定された株式会社岡山村田製作所の環境保全活動の取組に続き2例目となります。

これらの活動は各事業者が長年続けてきた環境保全の努力が評価されたもので、市としても大変誇るべきものです。

今後とも地域の豊かな自然環境を守り育てる取組への支援を続けるとともに、地域の皆さんや他の企業・団体にも波及することを通じて、次世代に誇れる「自然共生型のまちづくり」を進めていきます。

○ 先進技術の導入による産業・地域の振興について

本市では、農業者の高齢化・減少が進む中、労働生産性の高い農業構造への転換を推進しており、スマート農業の導入とその効果を高める栽培体系への転換等の取組を総合的に支援するため、ロボット草刈り機やGPS機能を有するコンバイン、ドローンの導入に係る機械導入補助の予算を今議会に計上しています。

また、現在、建設課において自治組織等に貸し出しを行っている「ラジコン式草刈り機」も、5月末までは全ての機材の予約が埋まるなど、順調に推移している状況で、今後もこれら先進技術の導入による省力化、省人化による地域の維持、発展を進めていきたいと考えています。

○ 市営バスの利用者数増加について

全8路線で運行している市営バスについて、令和7年度の年間利用者数は179,430人でした。令和6年度の162,087人から17,343人増

加しており、対前年度比で110.7%となっています。

また、市民や観光客の皆さまの利便性向上を目的として、今年度の4月から、「虫明・長島愛生園線の増便」と「牛窓－邑久駅線のルート見直し」を行っています。

まず、4月1か月間の初速については、いずれの路線でも一定の利用者増という効果が見られており、前年の4月と比較すると、「虫明・長島愛生園線」が5,454人から7,278人に、率にして133.4%に、「牛窓－邑久駅線」が226人から539人に、率にして238.5%になっています。

また、新たな利用者の掘り起こしを目的として、3枚の「お試し利用チケット」を全戸配布しました。こちらの利用枚数は1,740枚で、市営バス利用者数全体の約10.4%という結果となりました。全8路線における今年4月の1か月間の利用者数で見ても、前年同月比で123%となっており、一定の効果があったものと分析しています。

今後、利用者のニーズを把握しながら、より利便性の高い市営バスの運行につながるよう改善を図っていきたいと考えています。

○地域おこし協力隊隊員募集状況について

市では、今年度、現時点までに地域おこし協力隊を2つのテーマで募集しました。

1つ目は、マリンスポーツを通じた観光・地域振興の業務に携わる「マリンスポーツプロモーター」です。具体的な活動内容としては、「ヨット教室、ヨットを活用したアクティビティの企画、航海体験など」を想定しており、募集人員は2人となっています。

2つ目は、人手や財源不足が要因となり、昨年度は中止となった「牛窓花火大会」の復活を目指すための「花火大会コーディネーター」で、募集人員は1人となっています。

いずれも、5月中旬の受付期間までに募集人員を上回る応募がありました。7月には隊員が活動を開始できるよう準備していきます。

○ 広報せとうちの刷新について

市では、「人が集い、手取りが増えるまちづくり」の実現に向け、市民の皆様の満足度の向上と定住促進に向け、市の情報発信の改善に努めています。

「広報せとうち」においても、さらなる「伝わる広報」の実現に向け、令和8年6月号から、特集ページの充実や掲載情報の厳選、文字を減らしイラストを増やすなどの見やすい紙面構成への変更に取り組み、情報をより分かりやすく整理・配置するリニューアルを実施します。

○ いじめ問題への行政的取組について

「人が集い、手取りが増えるまちづくり」を実現するため、子育て世代の懸念事項の一つである「いじめ」について、瀬戸内市では「ゼロ」を目指して取組を進めます。

令和9年4月から、児童・生徒を対象とした、いじめ問題への対策として新たに行政的手法と法的手法を導入し、「教育」、「行政」、「司法」の三位一体でいじめに対応する体制構築に向けた検討を開始しています。

この取組は、教育委員会による従来の教育的手法を継続しつつ、市長部局で進めるものであり、教育的手法と行政的手法が並走することで、児童・生徒の

命と尊厳を守る取組と考えています。

これまでいじめ問題の対応は、教育委員会を中心に教育現場での指導や支援を行ってきましたが、人権問題としての重要性に鑑み、行政が即時介入し、いじめ行為の解決を図る仕組みを整備します。さらに、いじめ被害者が司法的な救済を受けられるよう、必要に応じて訴訟費用の補助等を行う法的手法を導入する仕組みを構築します。

今後も、市としていじめの迅速な解決を目指し、関係部局が連携して環境の整備を着実に進めていきます。

○ 避難所におけるトイレ環境の整備について

市では、要配慮者やダイバーシティの観点から、衛生面に配慮した自動ラップ式トイレ30台と非常時オストメイト専用トイレ9台を国からの財源も活用し、市内の公共施設17施設と備蓄倉庫2か所の計19施設に導入したいと考えており、関係する補正予算を今議会に提出しています。

○ 市道開田線道路延伸事業の完成について

令和2年度から着手していましたが、邑久町豆田地区の市道開田線道路延伸事業において、一級河川「香登川」に架けられた開田大橋及び一級河川「干田川」に架けられた茜橋が整備され、事業延長267メートルの道路が完成しました。

この道路は令和8年4月から供用開始となっています。

今後も引き続き市民の利便性向上のため、当該道路の延伸について検討していきます。

○ 市職員採用の状況について

近年、市職員の採用試験への応募人数が減少傾向にある中、優秀な人材を確保するため、今年度総務課では様々な取組を行っています。

まず、公務員試験対策なしでも応募ができるよう「SPI試験枠」を設定し、試験日程を民間企業の採用前倒しに合わせて早期化しました。

また、一次試験において、全国のテストセンターなどで受験できる方法も取り入れ、県外からの応募に対するハードルを下げることに配慮しています。

これらに加えて、副業解禁や庁内転職制度、政策提案制度なども積極的にPRすることで、4月28日の日中及び夜間と祝日の29日の3回開催したオンライン採用説明会には、昨年度比3.48倍の申込みがありました。

今後も優秀な人材を確保できるよう、更なる検証・改善を行っていくこととしています。

○ 熱中症対策の開始について

今年度も4月22日から「熱中症特別警戒アラート」及び「熱中症警戒アラート」の運用が開始されています。

近年の気候変動の影響により、今年の夏も全国的に気温が高くなると予想されているため、市民が自発的に熱中症を予防する行動が取れるよう、さらなる情報発信に努めており、市ホームページやSNSでの情報発信に加えて、今年度からは、新たに邑久・長船駅前のデジタルサイネージや市営バスに熱中症予防対策啓発チラシを掲示し注意喚起を強化します。

また、「熱中症特別警戒アラート」が発令された際に開設する「クーリングシェルター」を市内公共施設9か所と民間施設12か所の計21か所に開設する

予定です。

○ 市民の健康づくりについて

今年度も、4月から市民を対象とした集団がん検診を開始しています。6月から開始の医療機関で受診できる個別検診と併せて、より多くの市民に受診してもらえるよう普及啓発を行います。

また、市民の健康づくりと社会参加促進を目指した「ウォーキングマップ」を作成し、市ホームページへの掲載に加え、市公式LINEにより情報発信しました。

今後も新たなウォーキングマップを作成していく予定としています。

○ 消防本部庁舎の防災力強化について

消防本部では、3月末に非常用電源・受発電設備の整備が完了し、消防庁舎全体での非常用電力が確保できるようになりました。また、発電設備の燃料も、国が推奨する3日間連続で稼働できる量が備蓄できるようになりました。

さらに、整備後の発電設備は、地上から3mの高さに設置し、台風等の大雨による浸水対策も強化しています。

あわせて、消防本部グラウンドの整備も3月末に完了し、災害時でのヘリポート運用の環境確保、消防団の訓練環境、災害時の給水環境が改善されています。

今後も災害拠点施設として消防庁舎の防災力の強化に努めていきます。

○ 中学校部活動地域展開について

中学校の部活動については、昨年度策定した「中学校部活動の地域展開基本方針」に基づき、令和10年度当初から休日の部活動をすべて地域クラブによる活動に移行することを目指し、地域展開を進めています。

休日の部活動の受け皿となる団体等については、「瀬戸内市地域クラブ認定制度」を整備し、部活動の地域展開に係る地域クラブの認定を進めており、現在までに3種目・4団体を認定しています。また、今年度からは、認定地域クラブの運営支援としての補助金交付や、経済的困窮世帯の生徒への参加費支援などの財政支援を行い、現在中学校で実施されている部活動の種目について、さらに地域展開を進めていく予定としています。

○ 邑久スポーツ公園野球場の整備について

邑久スポーツ公園野球場では、安全・安心にプレーできる環境整備として、防球ネットを、プレー環境と観戦環境の改善を目的に右中間後方ハスコアボードを、それぞれ設置しました。その結果、隣接する公園や周辺道路への飛球が大幅に減少しました。

今後も、より多くの方がプレーや観戦を通じてスポーツを楽しめるよう利用促進を図り、スポーツ振興に取り組んでいきます。

○ 市民図書館入館者数150万人突破と開館10周年について

市民図書館「もみわ広場」は、2016年6月の開館以来、多くの市民の皆さまにご利用いただいております。4月11日には累計入館者数が150万人に達しました。また、6月1日に開館10周年を迎えました。

現在、「開館10周年記念イベント もみわ祭(まつり)」を5月31日から6月21日にかけて開催しており、絵本作家によるワークショップや古本市、記念講演会などを実施し、幅広い年齢層の方々に図書館に親しんでいただく機会となっています。

これからも、知識や学びを深める場であるとともに、多くの方々が集う交流の拠点として、重要な役割を果たしていけるよう、各種事業に取り組んでいきます。

さて、今議会で提案申し上げます案件は、条例10件、補正予算3件、その他7件、計20件です。

よろしくご審議をいただき、適切なご決定をいただきますようお願い申し上げます。報告を終わらせていただきます。

令和8年6月4日

瀬戸内市長 黒石 健太郎